

東京仁多会から町立奥出雲病院(奥出雲病院介護医療院)に医療機器が寄贈されました

首都圏に在住し、奥出雲町にゆかりのある方が集う東京仁多会の三澤会長をはじめ95名の会員の皆さまから、医療機器(離床センサーマット6点とコンピューター制御の自動点滴装置)が町立奥出雲病院に寄贈されました。この寄贈には、コロナ渦の中、地域医療に貢献している町立奥出雲病院を応援したいという気持ちが込められています。寄贈された医療機器は、今年11月に病院内に開設した「奥出雲病院介護医療院」で使用されます。鈴木院長は「入所される利用者が、安心してお過ごしになれるよう活用させていただきます。」と感謝の言葉を述べられました。



東京仁多会 三澤会長



離床センサーマット

自動点滴装置

「お笑い芸人 かまいたち」島根リハビリテーション学院に来校

11月6日、お笑い芸人の「かまいたち」が島根リハビリテーション学院に来校し、トークショーとお笑いライブが開催されました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により春からリモート授業が行われたほか、4年生は、病院での臨床実習が中止になるなど、学生生活に不安を抱える年になりました。

そこで、学生たちを励まそうと教員からのサプライズプレゼントとしてトークショーとお笑いライブが企画されました。この企画は、学院の教員と「かまいたち」の山内さんが高校の同級生であることがきっかけで実現しました。

リハビリテーションの仕事は、リハビリの技術だけでなく、利用者を笑顔にし、生きる活力を提供するもので、お笑い芸人の人を楽しませ笑顔にする仕事と人を笑顔にするという部分は共通しています。

トークショーでは、学生たちが卒業し、リハビリテーションの仕事をしていく上で必要なコミュニケーションの取り方など笑いを交えてお話いただきました。

参加した学生は、「久しぶりに大笑いをして元気をもらいました。『人を元気にする』のは、理学療法士、作業療法士、お笑い芸人も一緒。今日学んだ話のテクニックをこれから活かしたい。」と感想を話していました。



トークショーの様子

奥出雲町特別職報酬等審議会から町議会議員の報酬等について答申

奥出雲町特別職報酬等審議会は、本年10月に設置され、町長から諮問された「議員の報酬及び費用弁償の額」について審議会を3回開催していただきました。

11月19日に町議会議員の報酬の額及び費用弁償の額について、「いずれも現在の額を据え置くことが適当である」との答申をいただきました。

答申では、全国的な地方議会の課題でもある「議員のなり手不足」の解消については、若者や女性等が仕事や家庭を持ちながら議員活動ができる議会運営や、町民の議会への理解をより一層深めてもらうために、地域住民との意見交換の機会を増やすことなどが重要であるとの意見がありました。

また、公職選挙法の改正により、議員の立候補に必要な選挙費用の一部が公費で賄われることとなり、従来よりも立候補しやすい環境整備が整ってきたことも答申の理由のひとつであるという意見が添えられました。



勝田町長に答申書を提出する川角会長(右)

令和2年度 島根県各種功労者表彰を受賞されました

各分野において県勢の発展に大きな貢献があった方を知事が表彰する令和2年度島根県各種功労者表彰について、本町からは2名が受賞されました。

●朝倉進さん(下横田)
多年にわたり島根県自然保護レンジャー等を務め地域における自然保護に寄与されました。

●安郷弘泰さん(大馬木)
多年にわたり協同組合の運営と経営基盤の確立に努め地域経済の振興に寄与されました。



安郷弘泰さん(左)と朝倉進さん(右)

祝 第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 10回目の金賞受賞

11月28日、第22回米・食味分析鑑定コンクール国際大会が、静岡県小山町において開催されました。「奥出雲仁多米株式会社 おいしい仁多米をつくる会」が国際総合部門に出品した仁多米コシヒカリは、中国地方で唯一金賞を受賞しました。今回の金賞受賞は、4年連続10回目の快挙となりました。

国際総合部門は、出品された4,755点のうち、1次、2次審査の食味分析計や味度計での審査を通過した43点が最終審査へ進みました。最終審査は、食味鑑定士が「外見・香り・粘り・堅さ・うま味」の5項目を基準に官能審査をし、各賞を決定しました。

今回、10回目の金賞を受賞したことで、来年「奥出雲仁多米株式会社 おいしい仁多米をつくる会」の仁多米コシヒカリは「ワールド・ライス・アワード・ゴールド10」に認定される見通しです。

内田康也管理部長は「仁多米の金賞受賞は、奥出雲町のブランド力を高めるきっかけとなり、町の活性化に大きく繋がると思います。10回目金賞受賞を機会に、更に多くのお客様に手に取っていただけるようPRしていきます」と話されました。

また、大型農業法人部門(総作付け面積50ha以上)でLLP横田特定農業法人ネットワークが出品した仁多米コシヒカリが特別優秀賞を受賞されました。



奥出雲仁多米株式会社の皆さん

若槻一夫氏(亀嵩出身)が奥出雲町名誉町民に選定されました

この度、亀嵩地区出身で広島市在住の若槻一夫さんが5人目の奥出雲町名誉町民に選定されました。

若槻さんは、社会貢献活動を昭和47年頃からはじめられており、その内容が公共の福祉などに寄与されていることから、名誉町民として町長が「奥出雲町名誉町民審議会」に諮問して審議いただき、去る、11月27日に開催された奥出雲町議会において同意を得て選定されました。

若槻さんの主な功績としては、出身地区である亀嵩地区の高齢者に「敬老の日」にあわせて記念品を贈られたり、亀嵩小学校の児童を広島市民球場へプロ野球観戦に招待されています。また、町に対しても、平成17年からは高齢者福祉や子育て関連施策への活用を目的とした寄附を続けられており、更に、今年のご自身が故郷を離れてご苦労された経験から、コロナ渦の中で影響を受けている奥出雲町出身の学生への就学や生活の支援のための寄附をいただきました。この他にもダビデ像・ヴィーナス像の寄贈、公園の整備、ご当地ソングの制作など数々の社会貢献活動をされています。

なお、名誉町民の称号の授与については、12月13日に若槻さんのご自宅にお伺いし、町長より名誉町民の称号を証する証書をお送りしています。



若槻一夫さん

令和2年小学生たたら体験学習

11月26日から27日にかけて、鳥上小学校内古代たたら体験学習工房で町内の小学校6年生の児童を中心にたたら体験学習が実施されました。この学習は、「たたら製鉄について理解を深める事により、郷土を愛する心を育むこと」と「一緒に体験する児童が交流を深め、自分の思いや考えを伝え合うこと」を目的とし、日刀保たたら協力の協力を得て行われました。

初日は、粘土を用いた炉づくりのほか、土砂から砂鉄を選別する鉄穴流し体験や木炭を切る体験を行いました。2日目は、日刀保たたら村下 木原氏の指導のもと朝から日暮れまで鉄と木炭を交互に入れる作業やふいごで風を送る作業を交代で行いました。

その後、炉を壊すと、真っ赤に焼けた鉞が児童の前に現れました。今回の体験では、砂鉄139.5kg、木炭195kgを使用し、40kgの鉞が完成しました。

参加した児童は、「作業は難しかったけど、みんなで声を掛け合いながら行動できてよかった」と満足そうに話しました。



日刀保たたら村下 木原氏(前列右から4番目)と参加した小学生の皆さん